

「天文博物館と地域のつながり」

磯田拓也 2011/11/08

現場に足を運ばなくなった経営者のように、星を観察する現場から遠ざかって20年、この原稿を書くのも恥ずかしながら、岡山天文博物館の栗野館長にその話をすると、私も同じです、普通みんなそうですよ。そ、そうですよね。と、ついつい意気投合。今も最前線の現場で活躍している皆様に最大限の敬意を表しながら、今回は 栗野館長と 天文台と地域づくりについて話をしてみました。



岡山天文博物館の栗野館長（左）と磯田

この岡山天文博物館は、国立天文台岡山物理観測所が当地に設置されたときに天文学の普及を目的に開館されました。開館が昭和35年だから、私と同年（^_^）；その後、運営は当市の浅口市に移管されました。

栗野館長は、博物館の運営の合間に高校で天文学講座を開設したり、依頼があれば出張観望会をしたりとこの地域の天文学の普及のために尽力されています。平成20年

からは、岡山天文博物館友の会が発足して、友の会のメンバーが色々なイベントを企画するなど、天文博物館と地域の人たちが一体となって活動しています。11月3日には、「星月夜のコンサート2011」が博物館の隣の山・岡山遙照山ホテルで開催され、150人近くの観客が星空の下、美しいコンサートの音色に酔った後、天体観測体験をしました。普通の観望会では、星を見たい人が集まるものですが、異分野の音楽と天文のコラボレーションだと、全く天文に興味のなかった人にも、望遠鏡で星を見せてあげることが出来るので、お互いを理解するきっかけになり、より天文への理解が進むと感じました。

これからの地域づくりには、高い文化性が必要であり、天文博物館と地域の人たちが一体となって地域づくりに取り組んでいる様子に感銘を受けました。私は、中小企業経営者として地域づくりに何が出来るか考えてみたいと思います。

さて今回 博物館にお邪魔した目的のひとつに、4次元デジタル宇宙シアター4D2Uを見てみたいというのがありました。国立天文台が開発したもので、専用の立体メガネをかけることで、立体映像を見ることができます。

4D2U

国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト
FOUR-DIMENSIONAL DIGITAL UNIVERSE PROJECT, NAOJ

2台を使ってスクリーンに投影したもので、超高速で過去から未来へ宇宙旅行をしているような感覚は、大変楽しめるものでした。以下のサイトの4D2Uナビゲーターでその片鱗を見ることができますので、興味のある方は是非体験してみてください。

国立天文台4次元宇宙プロジェクトのページ <http://4d2u.nao.ac.jp>

国立天文台のページ <http://www.nao.ac.jp/>

岡山天文博物館のページ <http://www.city.asakuchi.okayama.jp/museum/>

このソフトは、国立天文台のサイトからダウンロードできます。博物館の装置もパソコン2台とプロジェクター